

平成27年度 学校法人 三幸学園  
東京ウェディング&ブライダル専門学校専門学校  
自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 小倉 裕子

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 林 一馬

## 1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ブライダル分野の学校として「最幸の結婚式を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ブライダル分野として「最幸の結婚式を創り上げることを通じて、新郎・新婦だけでなく、その家族、その人生も幸せにできる No1 プランナー・コーディネーター」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

## 2. 27年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

本年度は教務の体系化プロジェクトとして、三幸学園の様々な教育を関連付け、体系化することで行事ごとの教育効果と役割を明確にした。成功体験や感動体験を繰り返せる教育の仕組みを作り出し、社会が必要とする能力を持った人材の指標となる『経験を積むことで身につく行動特性（＝コンピテンシー）』を分析し、「対人基礎力」「対課題基礎力」「對自己基礎力」を身につけることができる教育に取り組んでいる。

### ① 重点施策振り返り

《教務：体系化プロジェクト》

#### ・PROGテスト

（生徒のコンピテンシー力を測定し身につけている基礎力や学校の教育力を数値化するもの）

#### ・SCOUTERパーソナルテスト

（潜在的な資質の特性や傾向を明らかにできるもの）

#### ・新入生オリエンテーションプログラムの変更

（下記の教育コンテンツと連動したプログラムを実施）

#### ・夢のスケッチブックの充実化

（原田式メゾットの導入に伴い生徒が毎日、記入しやすい書式に変更、持続させる事により主体性や目標の理解、モチベーションアップへつなげるもの）

#### ・成功の法則の強化

(原田式メゾットの導入後に中長期的な目標を達成する事で成功体験からのモチベーション維持)

- ・ アクティブラーニングの導入 (授業の効果を高める手法)
- ・ あきらめない教育の浸透 (学園の教育特徴などや理念と実践の浸透を図る)
- ・ 退学率低減 (クラス会議の実施、担任指導者・キャンパスアドバイザーの設置など)

## ② 学校関係者評価委員会コメント

学年が変わるタイミングでの退学者が多い傾向。また、とりあえず専門に来てみたという生徒もいる為、退学の理由として目標喪失が多いのも特徴のひとつにあげられる。仮に卒業できたとしても長く勤めることが出来ない可能性もある為、学校での指導が重要。もっと楽しさと厳しさを感じてもらえるようにする必要がある。

## 3.評価項目の達成及び取組状況

### (1). 教育理念・目標

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

### ① 課題

三幸学園の教育の原点は「技能と心の調和」にあり、それはいつの時代も揺るがない。しかし、教育方法や求める成果は生徒の変化や時代のニーズによって変えていかなければならない。その為常に「今の社会で活躍できる力」をリサーチし、在校生や卒業生へのアンケートで教育成果を確認、学内にもフィードバックして、教員がニーズにマッチした教育を行う資料として役立てている。それらを踏まえ一昨年度より、生徒ならびに保護者を対象に説明会を行い、入学前に行い浸透できる仕組みを確立する。

### ② 今後の改善方策

視覚・聴覚からの浸透として、イメージ映像を作成、学校内に「人材育成」を記載したポスター掲示等浸透を図る必要がある。また、企業と生徒にそれぞれアンケートを実施し、学びの検証をすることで業界のニーズを把握し、人材育成に役立てる必要がある。

### ③ 特記事項

入学前オリエンテーションの開催

実習アンケートの実施

保護者様に向けた行事の開催や就職・実習について定期的な保護者通信、成績表の送付

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

入学を希望している生徒のほとんどが、結婚式への参列経験がない為、それも踏まえてイメージが沸くような授業展開をするべき。本当の結婚式を見学できればいいのだが、それは難しいので体験入学の際に、模擬で結婚式の列席者として参加させるなどの工夫をするとよい。

### (2). 学校運営

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

#### ① 課題

システム化による業務の効率化の推進

教育活動の積極的な情報公開

#### ② 今後の改善方策

WEBを活用した情報伝達システムの導入による教務掲示板による伝達の効率化を推進する。

教職員の指導・実務スキル向上の為の研修を充実させる。

学園HPでは入学希望者への内容が主となっているが、業界・企業向けに教育の過程や成果に対する情報公開を積極的に行う。

#### ③ 特記事項

学生管理システムによる生徒情報・成績管理を行っており、卒業生データも管理している。

人事・給与規定は就業規則として、雇用形態別に規定があり明確化されている。

学科ごとに教務主任、財務決済のための責任者を学校単位に配置している。

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

より主体的に取り組むことができるようWEBを多く活用する必要がある。

### (3). 教育活動

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

#### ① 課題

企業との連携はあるものの、授業カリキュラムに企業との連携した授業展開に不足がある。三幸学園では企業や地域自治体との共同プロジェクトに積極的に取り組み、その一部は学校のカリキュラムとして、生徒の実践教育の機会に活かしている。産学連携プロジェクトを実施しているのは、以下の3つを目的としている。

- 1) 学校として業界で即戦力となる人材を育成する
- 2) 三幸学園と企業や地域自治体が協働して、社会的な課題解決に取り組む
- 3) 三幸学園として企業や地域自治体が双方に有益な活動を通じて、業界の発展を寄与する

#### ② 今後の改善方策

学内でも現場と同等の環境で、実務に即した実習を行い、実践力を養う機会が豊富に用意されている。実際の現場で業務に必要な力を総合的に身につける「インターンシップ」はプランナー科のカリキュラムであるが、今後はコーディネーター科でも導入する予定である。実践的かつ専門的な職業教育を協議・検討することを基本方針とし、カリキュラム委員会では修正・改善を行う。教職員の教務研修やOJT指導者の配置など人材育成にも取り組んでいる。

### ③ 特記事項

ウェディングプランナー科ではインターンシップを実施している。

教員業務スキルアップ研修の実施

教員リーダーシップ研修の実施

### ⑤ 学校関係者評価委員会コメント

全学科にインターンを導入することで、より現場のことを学べる機会が多くなる。ただ、現実的なものを見せた時に「大変」と感じてしまう傾向がある為、学校としてそれ以上の「感動」があるということを教えることが必須。

また、他校の生徒との交流も出てくるので、悪い効果が起こらないよう注意が必要。

## (4). 学修成果

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
就職率の向上が図られているか	4
資格取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

### ① 課題

卒業生からの情報収集の強化が課題である。また引き続き、退学率低減に対する取り組みの強化も必須である。

### ② 今後の改善方策

同窓会 Link を多くの卒業生に閲覧してもらい、卒業後の繋がりを強化していく。

退学低減プロジェクトチームを組み、1) 退学者への対応状況調査 2) 退学書類の改訂及び報告会の開催 3) 退学率低減目標の設定 4) 入学前の意識付け（目標の明確化） 5) キャンパスアドバイザーの設置等検討実施している。また、WEBによる掲示板を導入し、自らが情報を取りに行くスタイルを浸透させ、社会に出る準備として、自ら必要な情報を確認できる環境作りを行っている。

### ③ 特記事項

担任指導者の設置

卒業生あての求人をHPで公開

検定前には強化 WEEK の設定を行い、合格保証制度も設けている。

同窓会 Link で卒業生の紹介、講習会の実施を行っている。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

首都圏エリアを中心に雇用に関する体制は徐々に整ってきており、賃金、労働時間など緩和されつつある。

企業としては長く続けられる人を求めている為、長く続けている社員を多く輩出している学校とのつながりを求めている。

卒業生とのつながりも密にしたいと思っけていても、離職した卒業生は学校が来づらい場所になってしまっている。

## (5). 学生支援

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

### ① 課題

生徒指導に置いて、クラス担任が問題点を抱え込んでしまうケースが見受けられる。

先輩との繋がりを強化し、相談相手を多くの中なら選択できるようにする。

地方出身者のUターン就職に対する経済的支援を行う。

### ② 今後の改善方策

オリターという後輩に対する相談相手を生徒の中から選出し、学内に自由に何でも相談できるスペースを配置し斜めの関係で生徒対応出来る体制を作る。このことで、担任は自分一人で問題を抱え込まず、自クラスに関わる教職員と同じように指導が出来る。また、教科の教員との連携を密にする為、クラス会議を活用し、関わる多くの教員で情報共有・意見交換することで問題点を把握でき、指導に役立てる。そして、保護者との連携を重視する。生徒の問題を把握し、保護者に連絡し、早期に対応する。

地方出身者がUターン就職を希望した際に利用できる、就職活動時にかかる交通費補助を来年度より実施する。

### ③ 特記事項

昨年度より保護者様閲覧用の教務掲示板を立ち上げ、行事の告知や、日常の情報を共有し連携した指導を行えるよう環境を整えた。

引き続き、地方生への支援や卒業生へのスキルアップ研修、起業支援も検討していく。

卒業生 LINK の活用

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

女子が多く集まる環境の為人間関係には注意を払った方がよい。クラス替えのタイミングなどは担任やその他の教員へ相談できる環境を整えてほしい。

## (6). 教育環境

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災に対する体制は整備されているか	4

### ① 課題

施設の充実化はH25年度に改善。業界に特化した設備完備で、より実践的な授業展開が可能になる。同年度より実施するインターンシップへの参加企業の充実化が課題である。

### ② 今後の改善方策

コーディネーター科でも学んだ事を現場で実践するインターンシップや学外実習で、生徒は学習した内容を更にしっかり身につけることが出来る。そうしたインターンシップを体験しやすくするために柔軟な時間割を用意していく必要がある。そこで教職員は、インターンシップ前後での生徒の変化を見極め、一人ひとりをきめ細やかに指導することが求められる。

### ③ 特記事項

インターンシップカリキュラムの実施

実習先アンケートの実施

ハワイ研修の実施

進路指導室にはパソコンを設置し、自由に使用が出来る。

婚礼施設と同じ設備が整った実習室を設置

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

海外研修は、早い段階で内容の把握が出来るようにすることで、参加の有無の判断がしやすくなる。

海外研修では行った先でしかできないことや見ることが出来ないことなどを体験してもらうような内容になっている。

## (7). 学生の受入れ募集

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は適正に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

### ① 課題

年々増加傾向にあるが、ライバル競合校の新設に伴い、今後は難航が予想される。他校と差別化を図る為にも、より一層企業との連携が必要である。

## ②今後の改善方策

募集定員の確保する為、卒業生からの情報、企業からの情報を収集するだけにとどまらず、広く情報を公開し、本校に対する理解を深めてもらう。

## ③特記事項

体験入学・校内・会場ガイダンスの実施

各種イベントの実施

学納金は募集要項に明確に記載しており、基本的には追加の徴収はない。

## ④ 学校関係者評価委員会コメント

美容学校ではない学校にもかかわらず美容師免許の取得が可能というところは大きな魅力としてとらえている。また本物の結婚式を行うところなども魅力なので、もっとアピールしていく。

体験入学などには保護者の方々にも積極的に参加してもらい、子の背中を押してほしい。

## (8). 財務

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3
	やや不適切:2 不適切:1
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

### ① 課題

社会的なニーズに即した学校の設置・増加に伴って、今後は更なる業務の多様化に対応した体制強化と整備が必要と考える。

### ② 今後の改善方策

- ・制度に対応した合理化、システム化の推進に取り組んでいく。
- ・規模の増加に対応するための人材の育成

### ③ 特記事項

#### ○中長期的な財務基盤の安定について

- ・中期事業計画が策定され、当該計画はH25年度に前倒しで完了している。
- ・生徒募集は堅調に推移し、予算も計画通り推移し財務基盤は安定している。

#### ○予算および収支計画の有効性、妥当性について

- ・予算・収支計画については、正確かつ適正な予算編成を行うことを目的として、毎年度、学校責任者が策定し、総務部と理事で構成する予算編成会議において原案を策定している。
- ・予算執行状況が当初予算と乖離する場合、予算編成会議において補正予算の原案を策定している。



- ・策定された原案については、理事長説明を経て、理事会・評議員会において目的と有効性が審議され、有効かつ妥当なものとなっており、決算書、予算書、事業報告書に反映している。

○会計監査について

- ・私立学校振興助成法第14条第3項の規定に基づき、公認会計士による会計監査を受検している。また、私立学校法第37条の学校法人監事による業務監査及び関係監査を受検している。
- ・法人内部では総務部による内部監査を実施し、監事、公認会計と情報共有を行い、財務の正確性と業務執行状況について担保している。

○財務情報公開について

- ・財務情報の公開については、私立学校法に基づく体制整備している。なお、財務内容についてはWEBで閲覧可能な状態となっている。また、事業報告書を作成し、時系列且つグラフを用いて第三者からも理解しやすい工夫を行っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

委員会開催時 27 年度決算が終了していなかったため 26 年度財務諸表を参照して財務情報を共有した。

(9). 法令等の遵守

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

個人情報の管理の徹底は、プライダル業界でも必要なことになる。特にホテルは厳しいということを知っておくとい。

## (10). 社会貢献・地域貢献

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3

### ① 課題

地域貢献活動の実施。三幸学園と企業や地域自治体が協働して、社会的な課題の解決に取り組む。経済的理由で挙式ができないカップルのサポート。

### ② 今後の改善方策

授業の一環として、ボランティア活動を計画、実施を進めている。三幸学園のビジョンである「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」を実践。HPで結婚式を挙げたいカップルを募り、結婚式を挙げているが、審査から漏れてしまった方々へのサポートを強化する。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

学校としても不足していることと捉えているため、積極的に地域との交流を図っていく。

## (11). 国際交流(必要に応じて)

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	3
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	3

### ① 課題

ブライダル業界においては、留学生が日本での就職先の確保が課題である。

### ② 今後の改善方策

日本での勉学を活かし、母国で就職できるよう職業支援を検討する。

### ③ 特記事項

海外のブライダル系学校の学生対象に短期研修を実施予定

### ⑥ 学校関係者評価委員会コメント

留学生がいることで多様な考えや捉え方の違いを知ることが出来る為、積極的に入学させてほしい。

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

人材育成方針が明文化されたが、全体への浸透が今後の課題である。職業人としてその職種にあった考え方や行動が出来る人材を育成し、世に輩出し続けることが、専門学校としての社会的務めである為、今後は企業との繋がりをより一層深いものにし、優良学校としての認知を目指す。